



崩壊地の山腹工完成（平成 20 年）



現在の状況（令和 7 年）

長野県飯田市宮ノ上から同市座光寺の伊那谷総合治山事業所内に移転し、

飯田治山事業所は令和六年四月、

治山技術官 向山 剛

【伊那谷総合治山事業所】

飯田治山事業所

シリーズ



現場最前線からの便り

国有林の現場の最前線となる森林事務所・治山事業所等の仕事や、管轄する地域の特徴などを紹介します。

中央アルプスを源とする天竜川流域の松川上流域において、松川入地区民有林直轄治山事業を実行しています。松川入地区における治山事業は、昭和二十八年から長野県により実施されてきました。昭和三十六年に伊那谷地区に大規模な土砂災害と河川氾濫をもたらした「三六災害」をはじめ、度重なる台風や豪雨災害により飯田市の水源である県営松川ダムへ土砂が流入し、ダム機能が危機的状況に陥りました。このため、長野県・飯田市・松川入地区関係者からの要請に基づき、平成五年、民有林直轄治山事業に着手しました。令和五年度には事業が完了した区域を長野県へ移管し、現在は約四、七二二の民有林を事業区域として実行しています。事業区域の大半が、侵食の著しい花崗岩深層風化地帯（マサ土）であり、



天竜川で橋脚工事が進むリニア中央新幹線
（伊那谷総合治山事業所上空から撮影）

事業着手時は表層剥離型の崩壊地が多数存在していました。これら崩壊地の復旧にあたっては、緑化工の工種選択がその後の森林への復旧を左右することから、施工効果が高く施工しやすい工種・工法の採用が重要となります。これまで培ってきた治山技術による森林への早期復元を目指し鋭意取り組んでいます。近年では地球温暖化による局所的豪雨が多発し、甚大な災害が発生しやすい状況となっています。治山事業が山地災害の防止や地域の安心・安全を確保していることもPRしな

がら、引き続き事業に取り組んでいきます。



地元関係者への説明会（筆者：中央）

■未来の担い手へのメッセージ

荒廃地を森林に回復させるという壮大な治山工事の計画から実行に携わる過程の中で、自分の思いを反映させることや形として残せることにやりがいを感じることが出来ます。さらには様々な方とのコミュニケーションにより新たな知識や知見を得ることが出来るのもこの仕事の大きな魅力の一つです。